

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 1 年計画の 1 年目)

## 1. 研究課題

『尚書』解釈の過去と現在

The Past and Present of Interpretation on Book of Document(Shangshu)

## 2. 研究代表者氏名

竹元 規人

TAKEMOTO Norihito

## 3. 研究期間

2018 年 12 月 - 2019 年 03 月 (1 年度目)

## 4. 研究目的

『尚書』は中国最古の書物の一つであり、儒教の経書として長く読み継がれ、歴史史料としても用いられてきた。そのため、その書物としての成立から具体的な解釈に至るまで、長い研究の歴史が存在し、「尚書学」という一つの学問領域を構成している。「尚書学」は、それをタイトルとした国際会議が継続して開かれるなど、近年研究が再び活発化しつつある領域でもある。本プロジェクトでは、中国経学史・清代学術史で著名な陳鴻森氏と、申請者による研究発表を行い、過去(主に清代)の『尚書』研究・解釈を踏まえながら、現時点での新たな解釈を示す。それによって、長い歴史を持つ「尚書学」の領域に新たな知見を加え、国際的にその成果を発信することを目的とする。『尚書』の学術的・歴史的重要性から、本研究は古代から現代までの中国学術史全体にとって意義を有するものである。

## 5. 本年度の研究実施状況

平成30年12月に陳鴻森氏を招聘し、「『尚書』解釈の過去と現在」というタイトルの国際学術会議を開催した。陳氏は「高宗諒陰」に関する長年の研究成果を発表(講演)した。ほかに竹元が崔述(1740-1816)の『尚書』辨偽に関する研究発表を行い、その清代・近代以後の学術史上の意義を考察した。研究集会では、発表者・参加者により研究発表内容に関する集中的な討議を行うとともに、尚書学研究の方法や指針に関する幅広い議論も行った。続いて平成31年2月に九州大学の林暁光氏を招聘し、セミナー「文史哲—文学と哲学から見た『文史通義』」を開催した。平成31年3月、竹元・内山が台北に赴き、研究集会で陳鴻森氏の発表した内容を『東方学報』に投稿するための打ち合わせを行い、合わせて中央研究院中国文哲研究所ほかで研究者にインタビューを行って、台湾での近年の『尚書』研究動向を調査した。

## 6. 研究成果の概要

国際学術会議「『尚書』解釈の過去と現在」における、陳鴻森氏による「高宗諒陰」に関する発表は、氏の長年の研究の成果であるとともに紀元前以来の懸案を解決するもので、参加者一同は『尚書』及び経籍の訓詁・歴史研究について、深い認識を得ることができた。竹元の発表では、崔述の『尚書』認識が先行する明代の梅鷟(1483 頃-1553)、清代の閻若璩(1636-1704)、惠棟(1697-1758)らといかなる異同があるか明らかにした。討議では、今後『尚書』に関して進めるべき研究の方向・テーマが示された。

セミナー「文史哲—文学と哲学から見た『文史通義』」では、中国中古文学の観点から『文史通義』における章学誠の議論を見直すことができた。

台北における研究者へのインタビューにより、台湾での近年の『尚書』研究動向を、大学での経学関係の教育研究の現況とも合わせ、詳しく調査することができた。

## 7. 本年度の研究実施内容

2018-12-14 尚書解釈の過去と現在

「高宗諒陰」考

発表者 陳鴻森 台湾・中央研究院

崔述的《尚書》論

発表者 竹元規人 福岡教育大学

2019-02-19 文史哲—文学と哲学から見た『文史通義』

史的な文—古典文学研究の立場から見る章学誠

発表者 林曉光 九州大学

## 8. 共同研究会に関連した公表実績

上記の研究集会(2回)および下記の論文(1本)

## 9. 研究班員

所内 古勝隆一、福谷彬

学外 陳鴻森(蘇州大学、中央研究院)、内山直樹(千葉大学)

## 10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内		5 (0)	0	0	1 (1)	9 (0)	0	0	1 (1)

学内	2	15 (3)	7 (3)	10 (3)	10 (3)	16 (3)	9 (3)	13 (3)	12 (3)
国立大学	2	2 (0)	1 (0)	0	0	3 (0)	1 (0)	0	0
公立大学	1	1 (0)	0	0	0 (0)	2 (0)	0	0	0
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関	1	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0	1 (0)	1 (0)	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	6	24 (3)	9 (3)	10 (3)	11 (3)	31 (3)	11 (3)	13 (3)	13 (3)

※( )内には、女性数を記載

#### 11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	1(0)
国際学術誌に掲載された論文数	0(0)

※( )内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

掲載雑誌	掲載 論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
福岡教育大学国語科研究論集	1	崔述『古文尚書辨偽』略説	<u>竹元規人</u>

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

#### 12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

#### 13. 次年度の研究実施計画

なし

14. 次年度の経費

なし

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

最終報告書に記載